

## 令和2年度氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 令和2年12月21日（月）
- 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
- 3 会議時間 午後3時～午後4時50分
- 4 出席委員 伊藤宣良、笠島一之（上田兵吾 代理）、高木陽子、七分由紀雄（高嶋達 代理）、寺下利宏、堂端誠作、松原勝久、猶明孝信、西寛志、向井久尚、田中英雄、釣賀節子、林千昭、柳田ゆかり計14名
- 5 欠席委員 中西務、森本太郎、清水賢一、宮東一朗
- 6 市出席者 林正之（市長）、篠田伸二（副市長）、鎌仲徹也（教育長）、高橋正明（政策統括監）、京田武彦（企画政策部長）、藤澤一興（総務部長）、澤永貢子（市民部長）、森田博之（産業振興部長）、釣賀勝行（建設部長）、川淵宏朗（会計管理者）、森川浩延（防災・危機管理監）、大門芳宏（教育次長）、横山修一（消防長）、高野弘文（地方創生推進課長）、泉澤智秋（総務課長）、東軒宏彰（財務課長）ほか
- 7 案 件
  - (1) 配布資料の説明
    - 資料1 氷見市の行財政改革について
    - 資料2 「氷見市行政改革プラン」基本計画 数値目標実績（令和元年度）
    - 資料3 氷見市中長期財政見通し（令和2年度～令和11年度）
    - 資料4 「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組内容（令和2年度追加分）
    - 資料5 「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組実績等一覧
  - (2) 質疑応答、意見交換
- 8 発言内容 別紙のとおり

## 発 言 内 容

泉澤総務課長      ただいまから、令和2年度氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。

委員の皆様には、ご多用のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます総務課長の泉澤でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議は1時間半程度を予定しております。

はじめに、市長より、あいさつを申し上げます。

林市長              令和2年度氷見市行政改革推進市民懇話会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆様には、年末の大変お忙しい中、またお寒い中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から、市政の推進に何かとご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

加えまして、行政改革推進市民懇話会委員の就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき、深く感謝申し上げます。

現行の「氷見市行政改革プラン」は、平成30年度から令和3年度までの4年間を計画期間としており、第8次氷見市総合計画後期基本計画や地方創生総合戦略を行財政面から下支えする計画であります。

本市では、今後も人口減少が避けて通れない中、新型コロナウイルス感染症の影響による市税収入の大幅な減少に加え、少子高齢化への対応など歳出の増加が懸念されており、そうしたことから、歳入や人口規模に見合った財政運営を余儀なくされるものと考えております。

本日は、各分野を代表してご参加いただいております各委員の皆様には、本プランの令和元年度の実績や進捗状況などについてご説明させていただくとともに、現時点での今後10年間の中期の財政見直しをお示しし、今後の取組みについてのご意見やご助言、ご検討をお願いするものです。

人口が減少しても市民サービスの質を低下させることなく、幸せに暮らせるまちづくりの実現に向け、頂戴したご意見等を本プランに反映させることにより、本市の行政改革の一層の推進を図り、持続可能な自治体経営の確立に努めてまいりますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日ご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、

開会に当たっての挨拶といたします。

本日は、どうか、よろしく願いいたします。

泉澤総務課長

本題に入ります前に、会長、副会長、委員の皆様のご紹介をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、会長及び副会長ですが、氷見市行政改革推進市民懇話会設置要綱に基づき、会長を氷見市自治振興委員連合会会長の猶明様に、副会長を氷見市連合婦人会会長の高木様に指名させていただきました。猶明会長は所用で少し遅れられるということですので、高木副委員長に議事進行をよろしく願いいたします。

それでは、委員の皆様をご紹介いたします。お手元の委員名簿と会場図を併せてご覧ください。

氷見市農業協同組合代表理事組合長の伊藤様です。

氷見市小中学校PTA連合会会長 上田様の代理、笠島様です。

氷見市社会福祉協議会会長 高嶋様の代理、七分様です。

氷見市老人クラブ連合会会長の堂端様です。

氷見市観光協会代表理事会長の松原様です。

連合富山高岡地域協議会 氷見地区協議会副議長の西様です。

氷見商工会議所会頭の寺下様です。

連合富山高岡地域協議会 氷見地区協議会議長の向井様です。

氷見市特別職報酬等審議会委員、税理士の田中様です。

氷見市情報公開・個人情報保護審査会委員の釣賀様です。

前氷見市民議会副議長の林様です。

氷見市有線テレビジョン放送番組審議会委員の柳田様です。

なお、中西委員、森本委員、清水委員、宮東委員につきましては、本日ご欠席の連絡をいただいております。

それでは、高木副会長には、これより懇話会の進行をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

高木副会長

先ほどもご案内のありましたとおり、猶明会長に代わりまして、私が議事を進行したいと思います。

それでは、協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同様に、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思いますのでご了承よろしく願いいたします。

それでは、協議資料を一括して、事務局から説明をお願いいたします。

泉澤総務課長

【資料1】氷見市の行財政改革についての説明

【資料2】「氷見市行政改革プラン」基本計画 数値目標実績（令和元年度）の説明

ここで猶明会長が到着されましたので、一言よろしくお願ひいたします。

猶明会長

遅れまして、申し訳ありませんでした。本日は、よろしくお願ひいたします。

東軒財務課長  
釜田総務課主査

【資料3】氷見市中長期財政見通し（令和2年度～令和11年度）の説明

【資料4】「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組内容（令和2年度追加分の説明

【資料5】「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組実績等一覧の説明

0:41

猶明会長

事務局から、資料1～5までの説明がありました。資料3の中長期財政見通しについて、令和11年まで、厳しいが何とかやっけていける、という説明でありました。資料5の行政改革プラン実施計画についても、ほぼ順調に進んでいる、という説明でしたが、委員の皆様のご意見をよろしくお願ひします。

委員

もともと非常に厳しい氷見市の財政状況の中で、コロナの問題が出てきて、この先が不透明であり、数値の予測は厳しいという感じがします。そうはいっても、氷見市の将来を考えて、市長をはじめとして市民サービスが低下しないように色々やっけていくことが伝わってくる内容であったと思います。

ただし、資料3、中長期の財政見通しの（3ページ、歳入合計A－歳出合計Bの）収支差引額について、令和2年度9億、3年度18億、11年度6億など、毎年度大きな歳入不足となります。前年度に示された中長期財政見通しでも、毎年歳入が足りないという状況であったと思います。改善は難しいとは思いますが、収支がプラスにならないと、市の財政に余裕がない、困った事態が生じたときに色々なサービスが低下すると思いますので、どこかの段階でプラスになるという見通しを立てられるように、現実はどうなのか、どうすれば改善でき、将来住みやすいまちづくりができるのか、市だけでなく市民も一緒になって考えていくべきだと思います。

猶明会長

収支についてのご指摘がありました。新文化交流施設、学校給食センターなどの大物施設について出費が重なり、単年度赤字となっていますが、基金からの繰入で何とかカバーしている状況であると理解していますが、

何か補足説明はありますか。

東軒財務課長 財政収支を均衡にするには、まず、歳入を増やす、そして、歳出を削減するということになります。令和2・3年度につきましては、新型コロナウイルスの影響で市税が減っている状況です。国の対策である地方創生臨時交付金や緊急の経済対策の効果を見ながら、歳入が増えることを考えていかなければなりません。

歳出については、公共施設の再編計画により、上伊勢保育園の統合や、明和・速川・久目小学校の統合などにより維持管理費を削減しており、今後もうこういうことを考えていきます。

ふるさと納税は年々増えてきており、今年度は3億円を見込んでいますが、この半分は歳出に充てられることになります。こういうことにより、歳入を増やすことを考えております。

猶明会長 他にご質問はないでしょうか。

委員 大きく2つ、お聞きしたい。

1つは職員数の件ですが、住民サービスを第一に考え、人口数に応じた職員数を考えていると思いますが、さらに、デジタル化の職員数に対する影響、変動の考え方があればお聞きしたい。人口減が職員数に影響する割合、それがRPAなどデジタル化の導入によって更に変わるのででしょうか。

もう一つ、中長期財政見通しについて、財政調整基金を含めた3つの基金残高の推移が気になります。大型案件も市債の返済もここに盛り込んでいる、と認識しています。後半は苦しいと感じ、基金も苦勞しているのが分かります。

例えば、国勢調査の人口は「令和2年以降は推計」と書いてあり、これば目標値を書いていると思うが、こういうところは悪い数値を載せた方がよいと思います。良い方にしてしまうと、結果的にどんどん修正が出てきます。バランスを見るためには、将来像を含めて「これが最悪です」というくらいの数字を出した方がよいと思います。

数字を出すのは大変だと理解したうえで、頑張っやりくりをしてほしいという思いです。

泉澤総務課長 職員数について総務課から説明いたします。委員がおっしゃいますように、人口減少を考えた上での職員数の計画ですが、その中にはデジタル化、単純作業をシステムにやらせるとかICTの活用とかも含めて考えなけ

ればなりません。今の時点では人口減で何パーセント、デジタル化で何パーセントの減という明確な数値はありません。

次の行政改革プランの策定の際には、そういうことも念頭に置きながら職員数の計画を立てていきたいと考えております。

東軒財務課長

人口推計につきましては、令和2年3月策定の「氷見市人口ビジョン」の目標数値を使っております。国から出している数値は、2025年には市の推計より400人減、2030年度では1,200人の減という推計が出ており、財務課でも最悪を見込んだ方がよいという議論もありましたが、これだけの施策をしてこれだけの目標がある、という計画であり、それによって投資的経費も見込んでいるため、この数値を使わせていただきました。

委員

長期に財政の収支を毎年シミュレーションし、市の幹部がそれを見る、そういうやり方をするのは大切であると感じます。そうしないと少し膨張したり、また、急に財源不足になりました、という話になるので、毎年きちんとやるのは非常に良いことだと思います。

歳出の公債費は令和3年度は23億円とありますが、市債残高は公債費の発行額と返還額との差でプラスマイナスになっていくのでしょうか。

自治体特有なのかもしれませんが、歳入が130億円台で、公債費、借金が270億円台というのは、これで健全なのですか。ピークを迎えてから令和10年、11年に下がっていくまで、これから4、5年間公債費の残高が増えていくのは大変だと感じます。

猶明会長

毎年のシミュレーションは今後も毎年続けていっていただきたい、と思います。

公債費の内容について、説明願います。

東軒財務課長

公債費は借金を返す、発行額は借金をするということですが、発行額を償還元金の額以内に収めれば市債残高は減っていく、という仕組みになっています。

ここ4、5年で公債費が増えているのは、新文化交流施設と学校給食センターの建設、小中一貫校の整備などによるものです。有利な財源として過疎対策事業債があり、公債費の70%が交付税措置されるという仕組みとなっています。新文化交流施設は令和15年度まで市債の償還が続きますが、その7割は交付税措置されるということになります。

猶明会長 7割交付税措置されて、こういう伸びをするということですか。

東軒財務課長 普通交付税は人口が減るので落ちていくのですが、今回は大型事業への交付税措置があるので、60億円台で推移しているということです。

委員 氷見市の試算によると、中長期的に見て子供の数が1学年200人程度に落ちるとい試算があります。その先も、もっと人口が減ることであろうと思います。

行政改革プランで色々なことを実施しているとは思いますが、人口が減ることに対して、もうひとしぼり何かほしいです。

若者の定住、移住の方向に何か良い手立てがあれば、もう少しプランを立てていただければ、という意見です。

猶明会長 氷見市の人口増加対策について説明願います。

林市長 多岐にわたっているので、私からお答えします。子供の減少が激しい、また、その次の代の子供の数も減っていくということで、今度の1月の成人式は、住民基本台帳からすると400人ほどいますが、ここ5年ほどの子供の数の平均が230人から200人となってきており、20年間で半分となっています。

市長に就任して、最初に進めたいと思ったのが、ストップ・ザ・少子化、子供たちを産み育てやすい環境づくりであり、経済的側面では第2子の保育料無料化、家庭で子育て応援金、出生祝い制度を進めてきましたが、それだけでは減少を止めることができません。

そんな中、都会からコロナを契機に地方へ移住するという動きも出てきています。

移住者世帯の住宅の取得についても、子育て世代等であれば最大140万円の補助金を出すとか、また、氷見市に来てすぐ住むところが見つからないという話も聞くので、今年度予算で園の市営住宅跡地に移住者用の賃貸住宅を2棟建設し、体験で住んでもらって、移住者を増やしていくという施策を進めています。

今年から始まった第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、課題として、特に若い人の中でも若い女性の氷見への定着が少ないということで、平成29年度から進めているぶり奨学プログラムなどを更にPRし、多くの人に氷見に戻ってきていただく、また、そのためにも若い人たちが働ける職場づくりが大切であり、「住みたい街、働きたい街、育てたい街」を総合的に進めていくことで、人口減少を最小限にし、子供の数も増やす

よう進めていきたいと思っております。

委員

自治振興委員連合会としても、空き家バンクに少しでも多くの方に登録してもらい、移住者を支援しようとして取り組んでいます。若い女性や家族など、少しでも移住者を増やしたいと思います。

委員

移住者に助成金を出すと聞きましたが、来られた方が住み慣れるまで数年かかると思いますが、住んだ後の住宅補助以外の支援はあるのでしょうか。

京田企画政策  
部長

移住者への住まいの提供ということで、市長から説明があったとおり、賃貸住宅の整備をしており、来年度以降ご利用いただきたいと思っています。その住宅では1年程度まで生活していただくことができ、その間に氷見の良いところ、住みやすさも感じていただき、新たな住まいとその後の生活設計を見だし、定住につなげていただければ、というものです。併せて、それ以外のアパート等の家賃等についても、現行で2万円までの補助をしています。

その他、コミュニティがどうなっているかなどについて、誰かの支援や助言も必要であるため、移住応援センターが個別の相談に応じており、氷見に来られた後も、氷見での仕事や生活について相談に乗りながら、本当の意味で氷見の定住先を見だししていただくため、移住応援センターと共に移住者の支援に取り組んでいるところです。

委員

2点お伺いします。1点目は職員の問題です。資料2の6ページ職員数の推移ということで数字が載っています。非正規職員数は週30時間以上の人数をカウントしているとのことですが、週30時間未満の職員がいるのであればそういう方たちの分もカウントしてほしいです。常勤換算したらどのくらいになるのでしょうか。もし、別であるというのであれば、ここにこういう風に反映している、とお示しいただければと思います。

2点目ですが、若い人に来ていただく、定住していただくということはとても良いことだと思いますが、町中は高齢化が進み、縮小してきています。そういうところでは、協働のまちづくりというテーマを出されても、担い手が不足しています。空き家バンクに登録しているところはよいですが、何もしていないところへの対策、草が生えっぱなしだが民間の人間には何の権利もない、そういうところへの対応を縮小していく地区の中でどうしていけばよいのか、ということが問題になっています。

泉澤総務課長 職員数につきましては、昨年度までは嘱託・臨時職員という制度でしたが、令和2年4月1日から会計年度任用職員という制度に変わっております。この会計年度任用職員の中には、例えば1週間だけ任用するような職員もあり、そういう短時間短期間勤務する職員と線引きするためにも、行政改革プランでいう職員数は年間を通して一定以上の時間を働く職員ということで、30時間以上働く職員を載せさせていただいています。

委員 30時間未満の方はいる、ということですね。

泉澤総務課長 おります。

委員 常勤換算すると、おおよそでよいのですが、どのくらいでしょうか。

泉澤総務課長 申し訳ありません、例えば、1週間のうち4時間を2日間だけ働くような職員もあり、今の時点では換算しておらず、お答えできません。

委員 そうすると、その方にお支払いしている部分はどこに反映するのでしょうか。

泉澤総務課長 中長期の財政見通しの人件費は、短時間短期間の会計年度任用職員についてもすべて含んだ金額となっています。

猶明会長 もうひとつ、定住についてお願いします。

京田企画政策部長 人口減少の中で、地域で色々な問題が起きていると認識しています。特に空き家が増えてきて維持管理が難しいという問題が各地域にあると思っています。

空き家の問題については、年数が経つと危険老朽空き家といわれる場合もあり、そういうことへの対策も考えています。

可能な限り空き家バンクへの登録をお願いしたいということで、空き家の掘り起しをしています。

各地域では、地域の問題を解決するため、地域づくり協議会という形での組織化に取り組んでいただいています。地域振興課が担当となって進めていますが、地域担当職員も市全体で所管を超えて配置しており、地域のいろいろな会合に参加して地域の課題を共有しています。地域づくり協議会は現在8地区で設立されていますが、他の地域でも話しがまとまれば、地域づくり協議会の組織化の中で地域活動に対する補助金等の支援もし

ていくということで、行政と地域とが課題・問題を共有しながらできる対応を進めていきたいと考えています。

委員

地域づくり協議会がない地区で、個別に問題が発生したら、ダイレクトに市に相談すればよいのですか。

京田企画政策  
部長

分かりやすい課題の場合は、担当課に直接言っていただいてもよいですが、整理がつきにくい課題の場合は、市に対する要望ということで地域振興課にご相談いただければ、市として所管を超えて検討させていただきます。

委員

地域づくり協議会については、自治連合会でも全21地区で少しでも早く立ち上げてほしいと要望しています。現在8地区に設立されており、今年度は十二町地区が設立予定で、宇波地区も積極的に設立に向けて取り組んでいると聞いており、今後も順次立ち上がると思います。

地域の問題は地域で解決しようという形で取り組んでおり、空き家問題についても、市内では空き家の戸数がたくさんあるが、空き家バンクに登録しているのはごく一部であるため、地域づくり協議会が中心となって空き家調査を行い、また、地域おこし協力隊ともタイアップしながら少しでも有効利用を図り、移住につながるよう、自治会も積極的に取り組んでいきたいと思っています。

委員

大変な財政状況なので、歳出歳入について、しっかりと考えていかなければなりません。

これから新文化交流施設をはじめ大型施設ができてきますが、市民サービスであるからお金が稼げない、という考えは改め、なんとかお金が稼げるよう民間を入れていくべきです。また、歳入の方で、ふるさと納税について、全国的にはすごい額を集めている自治体もあるので、もう少し魅力ある商品を真剣に検討したらどうかと思います。

職員を減らしていかなければならない状況の中、民間の方が給与が安いところもあるので、しっかりアウトソーシングしてかつ効率も上げていく方がよいのかなと考えます。

ラスパイレス指数については一般行政職の職員だけだとは思いますが、何パーセントなのか分からないので教えてほしいです。職員を減らすだけでなく、氷見市は国や県に比べてどうなのか、市民にしっかりと分かってもらわなければならないと思います。

京田企画政策部長	<p>新文化交流施設については、令和4年7月竣工予定であり、現在整備しているのは公的な共用部分だけになりますが、以前からの話として、民間事業の導入ということも引き続き考えております。</p> <p>整備予定地の中での活用ということも含めて民間事業の導入を考えていますが、難しい問題であり、公募に応じてもらえなかった経緯もあるため、皆さんの知恵をいただきながら検討していきたいと考えております。</p>
森田産業部長	<p>ふるさと納税については、今、在宅勤務などで皆さんがおうちにいらっしゃる状況の中で伸びております。全国的に肉・蟹・米が断トツの人気の、氷見では氷見牛、米、魚など凝ったものよりどちらかというと農林畜産・漁業等の単純なものが人気です。よりよいものを返礼したいと一生懸命やっております、すでに2億円をはるかに超えている現状です。</p> <p>ふるさと納税というよりも、市内の農林畜産業その他の産業を育てていくこと、観光についてもよりやってみたい体験メニューなどを用意することが、結果的にふるさと納税も増え、地域に来る方も増え、最終的に地域の活性化につながる、ということで、今後も産業の振興に努めてまいります。</p>
泉澤総務課長	<p>ラスパイレス指数は、令和2年4月1日時点で氷見市は97.7%で、県内10市の平均は98.6%となっています。</p>
東軒財務課長	<p>民活のことで1つ、今回、新たに指定管理者を募集しており、4月から海浜植物園の指定管理者に東京のスカイツリーや大阪の海遊館の指定管理をしている大手業者がなります。</p> <p>また、10月に「氷見ふるさとエネルギー株式会社」を設立し、電気料金3%割引ということも行っているのも、ご承知おきいただきたいと思います。</p>
委員	<p>移住定住については、完全定住でなく半定住も推奨していて、リモートで増えているらしいので、住所を移し税金を納めていただくなどメリットも出しながら考えていっていただきたい。</p>
委員	<p>資料3、9ページの扶助費の内訳で、「50歳以上の生活保護費」というのはどういったものか教えていただきたい。</p> <p>また、中長期財政見通しの3ページ中の扶助費の支出が減っているのですが、人口減少の中、今から生まれてくる子供の数が減っている中で高齢者は増えていくので、逆に扶助費の金額は増えるのではないかと考えます</p>

が、どうでしょうか。

東軒財務課長 現在生活保護受給者は50歳以上がほとんどを占めているということ、社会福祉費についても65歳以上の支出が多いということで、この人口でだいたい比例するので、この数字を使っています。

委員 少子高齢化となると高齢者の割合が多いので支出が多くなるのでは、と思いますが、そういうわけではないのでしょうか。

高野地方創生推進課長 氷見市の人口の特徴としては、高齢者も横ばい、もしくは減少していく傾向となっています。

人口全体に対する高齢者の割合は高くなりますが、人数は減少傾向という推計に基づいて試算されています。

澤市民部長 高齢人口は、高齢化率は人口に対して増えていきますが、2025年頃をピークに高齢人口自体が減るという予測をしており、扶助費が減るといふ見込みであると考えます。

東軒財務課長 資料3、8ページの人口推計ご覧ください。65歳以上の人口は、平成27年国勢調査では17,273人、令和2年度は17,360人で若干増えますが、令和7年度は16,741人で619人減り、令和12年度は15,807人で934人減る、この数値に基づいています。

委員 資料4で本年度、マイナンバー等を利用した行政サービスの向上、押印等見直し、テレワークの推進などの取組みが新しく追加されています。

どこの市であったか、独居老人の特別定額給付金のマイナンバーを活用すればオンライン申請できるという手続の手伝いを市の職員が行ったと聞きました。高齢者は助かってありがたい活動だと思いますが、マイナンバーや振込口座などの個人情報を市の職員が直に扱うことになります。通常の業務以外の時に扱うのは、個人情報保護の問題があり、リスクだと感じました。コロナウイルス感染拡大の関係で事務の流れを変えよう、ITなどの技術を使って労力を少なくし、時間を短縮しようとしています。その中で個人情報の保護がとて大切になってきます。

個人情報を扱うのは圧倒的に役所が多いです。リスク管理、業務の手順を文書化し、例えば国家資格である情報処理安全確保支援士からの助言を受けるとか、職員が個人情報の保護をちゃんとできるような教育・研修・手順を考えていく必要があると思います。

大きな会社の方が氷見へ来て農業をするなど、とても良いことだと思いますが、そういう方は情報セキュリティの意識が高いので、氷見市は生命・財産だけでなく個人情報も守るように配慮している、そういう配慮のもとに、市民にやさしいサービスを提供しています、とアピールすることができればとても良いと思います。リスク管理に注意していただきたい。

泉澤総務課長 個人情報の保護については、コンプライアンスの関係もあり、職員が丸となって取り組んでいるところです。条例や規則でもきちんと定めています。

マイナンバーについては国も保護に力を入れており、各市町村で規定を必ず作らなければならないことになっており、氷見市ももちろん作っております。その中で、マイナンバーを取り扱う職員を指定しており、業務に関係する職員しかマイナンバーを取り扱ってはならない、となっております。研修なども行っており、マイナンバーに限らず、個人情報の保護については、市を挙げて取り組んでいるところです。

猶明会長 貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございました。おおいに今後の参考にさせていただきたいと思っています。

すべての案件が終わりましたので、事務局にお返しします。

泉澤総務課長 会長、副会長ありがとうございました。

閉会に当たり、市長からひと言あいさつを申し上げます。

林市長 本日は忌憚のないご意見をいただき、ありがとうございました。

財政の中長期の見通しは、ご指摘のあったように上振れ要素、下振れ要素どちらもあり、また、人口も氷見市の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の氷見市の人口ビジョンの将来推計を見ているので、国立社会保障・人口問題研究所の人口より多くなっており、実際は下がる可能性もあります。

行政改革により4つの小中学校が統合し西の杜学園となった、また、上伊勢保育園と南大町こども園を一つの認定こども園とした、今年度末で宇波保育園と阿尾保育園を統合するなど、これらの効果を試算すると、人件費や施設の光熱水費などで2億円程の削減、学校の先生分は県の費用ですので、市の負担は1億円程減少となりました。このような行政改革もやりながら、一方では老朽化している学校給食センターや閉館している市民会館などの整備により市民サービスの向上にも努める、こういう形で大型事業が進んでいるという状況です。

しかし、費用の上振れ下振れもあるので、こういった会議を毎年やりながら10年後を見越した中長期的な財政を常にシミュレーションし、場合によっては大型事業も一時先送りするなども含めて、将来につけを残さない財政運営、また市民の幸せのための施設整備を両立するために市としても努力をし、市民の皆様の理解が得られるような形で進めていきたいと思っておりますので、お集まりの委員の皆様からも今後とも貴重なご意見を承りたいと思っております。

今年は新型コロナウイルス感染症で、春先から市内の皆様は大変苦勞されているわけですが、来る新しい年には早期に収束を図り、市民生活が平調に戻りますよう、来年が素晴らしい1年となりますようご祈念申し上げます。閉会のあいさつとさせていただきます。

本日は、本当にありがとうございました。

1:50